



一本全
二册
付物

山形県立総合資料館
蔵書印



中
痴
居士



歌院をへるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、
かゝるは、

八二六

以及下二年

八二六



遺 詠

フハフ

吹く風も花乃ほころや福寿草

ナキナ

啼く鳥も花乃ほころや春のや

エモハ

雪解けも花乃ほころや春のや

ヲトシ

十起しきりりと日乃ほころや

タヲナ

竹の子や折も葉をても花乃ほころ

ヲニア

下りしきりりと二階寒くも花乃ほころ

シテア

鹿の角も花乃ほころや春のや

カフツ
イナヤ
ヨツア
アツア
ミイイ
ユチア
フトワ
キナナ

ア 鳳啼やほろこふはるの月の
ア 稲並く遠さめつゝらまらうち
ア おききつゝいざよふこころあれ秋の声
ア 朝うちや暁くつゝ長よおほつゝら
ア 三日月や揺まの露をりつゝら
ア 雲み夜や思ひぬ月り青つゝら
ア 冬空やとらつゝも走る日とせし
ア 木冢きくををさるゝちるあめ葉

アカケ

秋のたけふたけいふふろりろ

於枕石庵追善興行
俳諧之連歌

遺陰

身よむむ月のさあしふ影
若みおちをさつゝら音も沸くよ
おきき居るさつゝら響をさつゝら
きつゝらとらふちつゝらおちあ
おちらつゝら向いともあつゝらはゆふ

其節
可笑
友琴
竹村
其泉

茅ちりして出東ぬふけの富子

其流

雲をまよめおををくわはく

蘇鳳

妻くちまふ余お孫も又似合ひ

遅遊

おしる。一舞を孫そとく

圓水

くらしやうし葉の海多の池く葉

里遊

豊くししとよら観をうり

玉川

渥くをす縁子の方と月明く

采霞

吹たりくく秋きく納く

池月

あつめをる脈を強ふ賜り毫到り

宇海

回心町お外く名よあま

一龍

青くまら柳も花のせん

多逸

蒼の心くまきくたん

節

ゆきくちねく記ち

笑

くくま地まきくの根せ

琴

海客くく清くま

村

くくくくくくく

泉

新し紀勢淳子のほろゆき

砥石をくつて攪る手拭

雨ふも傘さしてしるし

まなほ清減り解もとくす

龍頭くちまふし霞の遠く

ふらふらやまのほろつき

夕月

ほろつきをいかにゆき

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

流

鳳

遊

水

里

川

霞

月

海

龍

逸

琴

夕

筆

ナカシ

ア 鳴子引くくや見よよ三雀

西京

芥舎

ヒヨシ

ア 吟く初る秋くく水いりきりいり

大坂

潮水

アカシ

ア 芦のくく風を音あう十三お

讃岐

南齡

ツブア

ア 秋くくふく出くくやくく秋の蝶

出雲

鶯居

スアカ

ア 涼のくく河くくや秋をけくくあふく

豊后

曲川

ツブサ

ア 月くくく落くくくくくあふく水

筑后

石友

マクア

ア 窓をくくあふくあり水や秋の蝶

花鸚

コヅイ 春のほとけのさくらさくら 柳

夏吉 夏柳

ケクヨ 春のたより 赤池

赤池 都曉

アサヨ 花のいろは 弁城

弁城 月鏡

アユス 姉のせき 散耕

散耕

千ミノ 通のれい 兎丈

兎丈

サアク 咲のめい 梅鶯

梅鶯

福博

ハワロ 初草や 九十

九十

ツギキ 月うけの 似影

似影

ニナハ 石のや 石夫

石夫

ツボア 自然のや 為成

為成

ココア 三日月の光 斜遊

斜遊

ワマノ 象の尻 斗量

斗量

ハキハ 振るふの 樋川

樋川

ハクテ 花のいろ 畦夫

畦夫

イシケ 井の鏡 松佳

松佳

シマア 暮るくは女日暮るくは秋の夕焼

市睡

メシイ 名月や晴る夕夕夕夕夕夕夕夕夕

三都雄

コアカ 暮年深くは清き心も一層お早

維夕

嘉麻

チトキ 惜しきも時や流るやあまのあま

山野 楠水

ヲヨキ 思ひゆくはやしくは落るく相ひしそ

花實

ウニア 海よ入る日もあまのあまのあま

其樂

大隈 居考

トキナ 終るの清くは暮るるあまのあま

ヲトホ 姉妹を思ひ逢へくはあまのあま

一得

イナキ 治る間もあまのあまのあまのあま

圓山

カシマ 門送りくはあまのあまのあまのあま

松華

マフナ 了却よ入る日もあまのあまのあまのあま

千手 美好

シマサ 種をばはきては終るのあまのあまのあま

我笑

ツフミ 月の出やあまのあまのあまのあまのあま

東月

上白井 松月

ヤソア 山も野も深るあまのあまのあまのあま

佐興 文香

ケニツ 下戸の雲をよめて 整へ日えり

如鳳

ヲヨヒ 送りやや 雲はももさくし

帶風

ツマナ 月々音 ねもさよいり 詠み事

酒樂

シマツ 常さくさく しくおの月 ねり

蘭遊

アウシ 秋のや 雲もさく 唯ねり

可樂

サテア 海しきく しく雲もさく 秋の蝶

野遊

ツノキ 我も雲をのり ねりし 雲の花

芦舟

キユイ きくさく 雲もさく 雲の傘

山雪

シキア 立出て 雲もさく 秋の序

宇海

マヒツ 河引 雲をさく ねりし 月の高

柳月

アマム 朝のや 雲もさく 仙の声

蘭雫

イテ子 いちほり 雲もさく 妹の雲

一龍

コアハ 雲さく 雲もさく 雲の雲

牛山

ヲタア 起ふ 雲もさく 雲の雲

許道

イト 雲つちや 雲もさく 雲の雲

梅里

タヒハ 草のりや 雲もさく 雲の雲

岸舟

鯨田

蒲生

川島

勢田

戈田

ソフア 空の眼の付くぬねちし天の川

露遊

ヲクア 落しぬねちし其漸て波むくく

口ノ原
花曉

ワミア 鉛籠もく水糸赤くり秋乃紅

玉雫

モナキ 喉のく沙汰控耳よ石く南

思春

キヨカ 作らよ赤くせそ舞ちり粟の籠

可友

ノキハ 舞直きし樹もきくもくうけ鳥

竹枝

スモト 次々藤も終て水空の終りし

松月

アツフ 秋くろや机と轉る筆み鞘

春圃

ヤオヒ 破きしぬえよも落ぬむと葉は

梅甫

穂波

アモコ 秋とむらもみのし柳あはくくは

吉隈
浄真

メアツ 春月とほほくを月取は

里風

イカツ 稻塚乃影より外に月照る

湖月

モナキ 板干しの中やいすもくさくさのた

一瓢

モシト 嬉しくや志くく九月の春の暁

花月

カシツ 更らぬくし熱りくくく月んか

春好

レカア 鹿の眼のさかて又たは油の

露梅

ワテナ 詠いあて寺のうらうら鳴子

内野 其蘭

テクク 出うらまてはよみぬ名や叫のふ

天道 山老

アキミ 秋のふゆや 雁のこゝろ味

飯塚 玉水

ヒホナ くらねえや 鬼燈のこゝろ

蘇鳳

コエア 小娘も襟はくろふや 秋の

露松

スハキ 海しづめのこゝろや 庵の相一葉

一居

アコハ 雨をこまぬりあらしまふ葉

月居

クケノ 民の戸をくまう 娘の月の

伊岐須 里梅

ナハイ 浪のうらまへや 秋の波

河津 水月

ツウワ 月の出や海を中さくはる鳥

其流

アム△ 何れも 向ふてやまゝ 虫の声

中村 愚若

ツイハ 月の出をりよし 秋の

簇山

イキヒ 稲並や 秋の日は 踏む

友月

ハナコ ほととぎすの鳴子 秋の

庄司 花亭女

アコカ あまのこ 秋の 替り

多き女

ハナア 柳馬や調なまにいと新しう冷 玉川

マウツ 招かれては雲をほめても月をうね 素六

アアツ 明日おきての日おんせうしとあのお玉 嵐霞

トフカ 嶽の露をふりしとやはりのそ 林月

ミウア 白き路りよ紙走るや一ゆり鐘 里遊

カエタ 行のきこい雪とちりぬけの月 湖遊

アケカ 朝の初しに花のり水の初るる 梅山

フナナ 吹のよ流るるやとる屋をぬく 津原

白説

遠賀

芦屋

メハワ 名月やとるるに光るはこれ 吐香

アト 秋のやに花のそとに 如心

アモシ 新葉のや花のぬけは 野山

フアタ 降るる花をよよむ 雨柵

ヒレハ 日の暮るる花をよよむ 魚泉

ウヨイ 葉の初るる花をよよむ 松暁

ヒトタ くらりよとるる花をよよむ 香甫

アテマ 船くわや出舟せうき膳ちうは

千壽

アテア 津心しるもく是ゆる平秋の夜

春霞

アヒツ 晴く又ふしー白ふーあね玉

晴波

クナキ 七草あ中ーいふよ紀枯強ゆ

岸石

クツキ 草ー入る月と静ーやきふしす

雅遊

ヨコア 昔をぬーころる勇し水の月

乙宜

ニハア 換挿の痛あきーきりてきあ秋の風

岸波

ホアハ 考るあーい何とにあるもふやーぬ

宜遊

ヲハハ 音のーと葉先乃動く芭蕉ゆ

隙遊

アヨエ 葦ややきーあさぬーまらう程

白鳥

カミワ 起るくーとんあ清ー塚乃上

巴水

トヒア 老さうほーくくを居るや秋の風

楠棊

ハヲト ほと鳥平葦と可ーらよのあしり

柗志

チミイ 凸凹もりーくぬ田々や寝の夢

五洋

ヲトモ 万葉のきさぬあはゆふーもみらぬ

貫之

ナイア 波くーのきあぬふーや秋のう勢

可逸

若松

黒寄

陣原

トキト

遠く軍へくさるるふも水津

高崎

アヒテ

朝顔やひとまつりあふ手習子

捕橋 南浦

△井ヒ

あゝ鳴や井の神あふ路のつ

山田 一陽

キノミ

桔梗咲く世をさるるつ女中

梅花

ユ夕子

暮れんと魂棚をよめる

撫柳

ユイケ

懐くわく廣水芭蕉子煙

高倉 舎柙

アヲア

赤白こ里のりあふ秋のつ

則松 恭元

エツハ

持れよこ日とあふりあふ

可笑

アイハ

空駕乃らくはも通るる水

野間 松里

キアア

柔の日やあふりあふ客

廣渡 暁里

ヒカア

心とあふりあふりあふ

スタラ 豊島

宗像

ミ子△

水音を眠るるしむる声

赤間 晁々

イイイ

あふりあふりあふりあふ

都月

キチキ

赤雪の音あふりあふりあふ

梅遊

フコア

あふりあふりあふりあふ

蘭水

タスハ 手折しと捨て又折る花野に花
花曉

ハカア ぬきぬきとぬきぬきの海に秋の松
旭松

ノヤヨハ 野を菜の村にさしとけり花野に花
山月

エヒツ 暮るる心ししく花野に花野に花
田島 稻花

ツムツ 花の心す玉と玉と夕月花野に
池田 檀山

ナノナ 花の心す玉と玉と夕月花野に
田野 花蔭

ミフコ 花の心す玉と玉と夕月花野に
福間 普雪

クツツ 花の心す玉と玉と夕月花野に
村山田 紫園

ノノシ 野を菜の村にさしとけり花野に花
久原 禾蔭

粕屋

タモナ 花の心す玉と玉と夕月花野に
久保 梅雪

鞍手

マトナ 花の心す玉と玉と夕月花野に
直方 糸霞

ハコメ 花の心す玉と玉と夕月花野に
遅遊

アミナ 花の心す玉と玉と夕月花野に
圓水

クマカ 花の心す玉と玉と夕月花野に
石霰

ナシム 中庭や〜花〜ち〜ち〜出〜

南瓜

サミフ 宿館やあ〜ん〜さ〜測〜の庭

正樂

ナヤシ 長ふおとあ〜あ〜さ〜まよ〜案

一笑

こナミ 見〜〜〜花〜ま〜花〜水〜や〜の月

宇雀

ミカリ ぬちき川と〜あ〜〜その海

弓卧

ナキキ 遠〜〜〜あ〜〜あ〜の月

池月

アワニ 秋子水〜あ〜〜あ〜の月

月橋

タエシ 草〜〜〜あ〜〜あ〜の音

太水

知古

木屋瀬

マヲシ 組乃音や〜月〜の清子〜

一溪

アツツ 新龍や〜あ〜〜あ〜の月

柳影

ア子ア あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

菰水

ヲフキ 表家〜〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜

洞之

ハヨツ 晴色〜〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜

芦雪

イロシ 山部〜〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜

尾石

ツカサ 自照〜〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜

普柙

キハノ 花北〜〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜

花静

新北

官田

山部

古門

頓野

新入

ウニツ

植木を庭に植ふるに葉は

竹村

ツフク

月の影拭くほろや雲の夢

庄司 多逸

サミア

在何れもなき煙る秋の暮

小竹 可笑

シカハ

水玉を袖に道ゆく花の影

其節

喜嫌ふ花の夜更に咲くけり

多逸

月新〜〜た夕立の跡

霞耕

春乃〜母と夕色と懐きあけそ

維夕

二階の窓を客のそとに

逸

草花の葉を心にひらき

耕

〜のおとろけをよそに

夕

大

さし海平七里の深も海苔の巻

野ノ宮を傍りて是れ海苔の巻

廓の底をゆく果てのこゝに田を

あゝとての原袖をゆくはふ

早稲の穂の巻をゆくはふ

くちの巻をゆくはふの神

吸おき月夜をゆくはふの巻

十并の巻をゆくはふの巻

逸

耕

夕

逸

耕

夕

逸

耕

くちの巻をゆくはふの巻

原の巻をゆくはふの巻

くちの巻をゆくはふの巻

ふと巻をゆくはふの巻

方陣馬をゆくはふの巻

巻をゆくはふの巻

巻をゆくはふの巻

巻をゆくはふの巻

夕

逸

耕

夕

逸

耕

夕

逸

豆ちいさくあまもはさしきりのまじ

悪やうな焼くおやうなまじ

とのやうな焼くおやうなまじ

まじりてあまもはさしきりのまじ

斜りてあまもはさしきりのまじ

斜りてあまもはさしきりのまじ

古習いあまもはさしきりのまじ

あまもはさしきりのまじ

耕

夕

逸

耕

夕

逸

耕

夕

中を成てあまもはさしきりのまじ

あまもはさしきりのまじ

折れぬあまもはさしきりのまじ

あまもはさしきりのまじ

清くあまもはさしきりのまじ

あまもはさしきりのまじ

逸

耕

夕

逸

耕

夕

影刻
物
印
藤
師
吉
郎

影刻
物
印
藤
師
吉
郎

十一

